



津田小だより

松江市立津田小学校
令和8年4月17日
校長 小林 敏朗

4月8日（水）に津田っ子の元気な顔、あいさつの声が学校に帰ってきました。およそ2週間の春休みを終え、一つ学年が上がり、津田っ子一人一人にとって新たなスタートの日となりました。保護者の皆様、地域の皆様、今年度も昨年度同様、本校の教育活動にご理解・ご協力・ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

始業式から…

4月8日（水）のスタートの日、最初に着任式を行い、その後令和8年度1学期の始業式を行いました。始業式では、私から次のような話をしました。

今日から、津田小学校の新しい1年がスタートします。新しい学年になり、新たな気持ちでがんばろうと思っていることでしょう。みんなでがんばっていきましょう！

さて、こちらを見てください。校長先生が読みますね。（音読）これは何かというと…12月ごろ、みんなに行った「学校評価 児童アンケート」の中で「こんな学校にしたいな」というところに、みんなが書いていたこと、たくさんの方が書いていたことを取り出したものです。みんな、どうですか？「ぼくもそう思う」「私も同じ気持ちだな」という人はたくさんいることと思います。それは、先生たちも同じです。みんながルールを守る学校、いろんな人に優しい学校、あいさつや思いやりなど当たり前のことが当たり前でできる学校など、こういう学校にしたいなと思っています。

校長先生は今年度「こういう学校にしたい」と思っています。「笑顔あふれる学校」です。そのために、一つ目「やさしさ・思いやり」のある学校。生活の中で言葉づかいに気をつける、ぼかぼか言葉を使うことに取り組んでほしいと思います。二つ目「ルールや約束を守る」学校。みんなが気持ちよく、安全に安心して生活するためにルールや約束があります。みんなで守っていきましょう。三つ目「『学校に行きたい』と思う」学校。まずは友達と仲良く遊んでほしいと思います。そして、しっかりと勉強もしてくださいね。勉強していて「わかった！」「できた！」と思って、すごいスッキリした、気持ちよかったということはないですか？勉強をして、自分の「わかった！」「できた！」をたくさん見つけてほしいと思います。

これから一年、やさしさ・思いやりを忘れず、ルール・約束を守り、友達と仲良く遊び、勉強では自分の「わかった！」「できた！」をたくさん見つけ、みんなと先生たちが一緒になって「笑顔あふれる」津田小学校をつくっていきましょう。

最初に子どもたちに紹介したのは右のスライドです。昨年度12月実施の「学校評価 児童アンケート」の中で、子どもたちが「こんな学校にしたいな」という思いを書いていたこと、代表的な意見を紹介しました。1月ごろ、子どもたちのアンケートを読んだ時に、子どもたちも我々教職員も同じ思いであることを再認識しました。

そこで、今年度は子どもたちから出てきた言葉を生かしながら「笑顔あふれる津田小学校」を大

- 学校のルールを守っていく
- きまりをしっかりと守る学校
- 相手の気持ちを考えて発言したり行動したりする
- いろんな人にやさしい学校
- あいさついっぱい学校
- あいさつや思いやりなど、
当たり前のことを当たり前でできる学校
- いじめや暴力、暴言がない平和な学校
- 差別やいじめがなく平和に過ごせる学校
- えがおあふれる学校
- 「学校が楽しい」と思えるような学校
- みんなが学校に行きたいと思う学校
- 楽しく毎日行きたくなるような学校
- 居心地の良い学校

きなスローガンとして話しました。このスローガンを達成するために「やさしさ・思いやりのある学校」「ルールや約束を守る学校」「『学校に行きたい』と思う学校」という話をしました（これらも子どもたちから出てきた言葉を生かしました。）。これらの3つのことは一朝一夕にはできませんが、子どもたちと保護者や地域の皆様、そして我々教職員とで日々の積み重ねを大切にしながら、このような学校づくりを目指していきたいと考えています。特に我々教職員は、組織的に継続的に子どもたち一人一人のよいところ、伸びや成長、がんばりなどをしっかりと見つけ、認めたり誉めたりしながら子どもたちの成長を促し、支えていきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様のお力添えもよろしくお願いいたします。



（少し話は変わって…）また、今回の始業式も静かに話を聞くことができていました（式で静かに話を聞くことは昨年度からずっと続いています。）。もっと言うと、体育館に入場してから私語をする子は一人もいませんでした。最初に体育館に入場してきたのは6年生の2クラスでした。そういう空気を6年生が創ってくれたおかげで静かに話をしっかりと聞く式ができたのだと思います。さすが6年生！さすが学校のリーダー！学校のリーダーとしての6年生に期待大です！

入学式から…

4月9日（木）に入学式を行いました。今年度の新1年生は105名です。入学式では、担任の先生から新1年生一人一人の名前を呼んでもらい、元気よく返事ができました。また、6年生は落ち着いた態度、姿勢で式に出席し、新入生に向けて心を込めて「歓迎のことば」を贈ることができました。6年生の声や表情からは新入生を温かく迎える気持ちが感じられ、最高学年としてとても頼もしく感じました。私からは、「あいうえお」の最初の文字「あ」にちなんで、3つの「あ」を大事にしてほしいことを話しました。「あ」んぜんに気をつけること、「あ」いさつをすること、「あ」りがとうを伝えることを話しました。新入生はこの話をきちんと聞くことができ、時折返事や反応をして、とても落ち着いた姿に感心しました。これから津田小学校の1年生としてどんな学校生活を送るのか楽しみですし、しっかりと見守り、支えていきたいと思えます

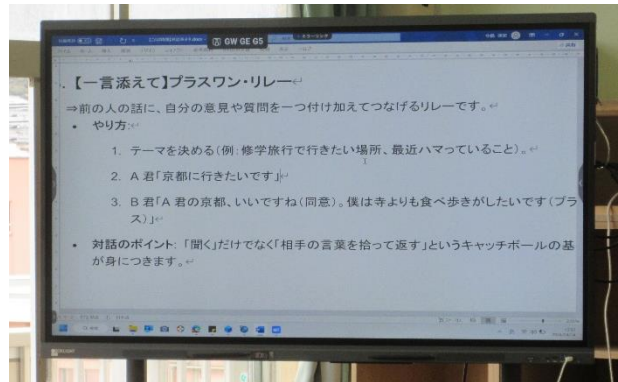


「ことば時間」スタート！

今年度から「ことば時間」という取り組みをスタートしています。昨年度末の学校だよりや2月の保護者の皆様への文書でお知らせしましたように、この時間は、学習の基本である「読み・書き」など言葉の指導に力を入れる取り組みです。毎週火・水・木曜日に15分ずつ取り組みます。具体的には、新出漢字の読みや書きを中心に、国語辞典での意味調べ、詩の音読や群読、かるたや百人一首な

どに取り組みます。これらの取り組みを通して、一人一人の基礎学力定着を図っていきたいと考えています。

早速、今週火曜日（4/14）から「ことば時間」がスタートしました。いろいろな学級に行ってみると、多くの学級で漢字ドリルを利用して、新出漢字を読むことや書くことを中心に取り組んでいました。読むことの中には新出漢字を使った例文を音読したり、書く時には筆順に気をつけながら書いていました。また、6年生のクラスでは対話力アップにつながる取り組みをしていました。相手の言葉を「聞く」だけでなく「相手の言葉を拾って返す」という言葉のキャッチボールの取り組みをしていました。これから言葉について基礎・基本的なところを大切にしながらも、子どもたちと学級担任とで工夫した取り組みが展開されることを期待しているところです。



手順を教える

「手順を教える？何のこと？」と思われたかもしれません。春休み中4月6日（月）の職員会議で、教員間で共通理解をしたことが、この「手順を教える」ということです。きっかけは昨年度出会った本（ハリー・ウォン/ローズマリー・ウォン著「世界最高の学級経営」）に書いてあったことです。「手順を教える」とは、手順や決まったやり方をきちんと教えるということです。具体的には次のようなことです。

○「手順」の例：（こんな時どうするのか？）

- ①始業ベルが鳴ったら
- ②鉛筆の芯が折れたら・芯を削りたいとき
- ③課題が早く終わったら
- ④質問があるとき
- ⑤授業中トイレに行きたい時
- ⑥ノートをとる方法
- ⑦教科書を読む方法
- ⑧グループ活動の方法
- ⑨宿題のやり方 など

○「手順」を教える3つのステップ

1. 説明する：手順を伝え、説明し、手本を示し、実演してみせる
2. 練習する：担任（授業者）の指示のもと、手順を練習する
3. 強化する：再度教え、練習し、教室の手順が子どもの習慣として定着するまで強化する

このような内容で「手順を教える」ということの共通理解を図っています。「どうしたらいいのかわからなくて…」とか「手順ややり方がわからなくて…」と困るのは子どもたちです。「まずはいろいろな場面において、どういう手順、どういう方法で行うとよいのかをしっかりと教えていきましょう！」ということです。「こういう時には、こういう場面ではこうするといよいよ。」と教えることが大事だと思っています。この手順を教えることの典型が、次の写真のように1年生の学校生活の中に見られます。



朝、登校後の手順です。登校したら何をするのか示してあります。



下駄箱に靴を入れる時に気をつけることや靴の向きなど、手順を教えています。



帽子や持ってきた荷物などをどのようにかけるか、手順や引っかける順番を教えています。

写真は1年生の取り組みですが、これは1年生に限った話ではありません。学習場面でもいろいろな学校生活の場面でも、〇〇ができなくて困っている子がいます。こういう子は本来できる力があるにもかかわらず、どうやっていいのか手順を知らない、やり方や方法がわからない、もしくはやり方や方法が定着していないなどの理由が考えられます。まずは、学習場面も含め、学校では子どもたちにしっかりと手順ややり方を教えていくことを大事にしたいと考えています。また、手順ややり方を教えることで「できる」だけでなく、子どもたちの「安心」にもつながると考えています。さらに、その安心が次への（未来への）主体的な取り組みや挑戦にもつながっていくことと思います。この安心を我々教職員、大人がつくり、支えていきたいと考えています。もしかすると、この手順を教えることは、ご家庭でも同様なことが言えるのかもしれない。例えば、家での仕事やお手伝いにもつながるように思います。料理をすること、料理を手伝うことも、お風呂掃除も、ふとんをたたむことなども、きちんと手順を教えることが大事なのだと思います。手順を教えることで、きっとできることも増えていくはず。手順を教えて、きちんとできた時には、がんばりや取り組みを認め、誉めていくと子どもたちも更にがんばります。是非、ご家庭でもこの「手順を教えること」を意識していただくと喜びます。（これは、ご家庭で何らかの家庭の仕事、お手伝いを通して、家族の一員としての自覚を育てていただきたいという私の思い、願いからです。）